

個別課題: がん緩和地域連携パスの使用  
(令和元年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
10 堺市立総合医療センター	大阪府がん緩和地域連携パスの使用件数 20件	患者が在宅緩和ケアを受ける際の情報共有ツールとして使用する。	大阪府がん緩和地域連携パス立ち上げ件数: 37件 使用件数: 18件  大阪府がん緩和地域連携パスの立ち上げ件数は目標に達しているが、病状の悪化などで在宅移行できなかった事例が19件あった。	病状の悪化に備えて、早めに準備する。  医療従事者への周知を継続する。  大阪府がん緩和地域連携パスを使用しやすくするようなシステムを構築する。
29 若草第一病院	がんパスを利用することで在宅医との地域連携につながる。 また、患者がかかりつけ医を作るきっかけとなり、今後様々な病気にかかった時に病診連携が可能となるため、がんパスにおける地域連携を行う。	① 緩和ケア関連パスの説明会を関連の医師へ実施する。 ② 新規パスを1件以上の導入。 【乳がん、前立腺がん稼働の検討】 ③ 大腸がん術後連携パスを10件以上つなぐ。	大腸がん術後連携パス 新規8件 新しいパスの導入→未達成 ①②に対して新規パスの乳がん・前立腺がんが介入できるよう準備できた ③新規8件であったため目標達成はしていない	①②準備は整ったため対象者があればすすめていく ③継続して対象患者に介入していく